

聖書；ヨシュア記8章1～9節

説教題：民の中におられる主

## 1 追いつめられるイスラエル

### 1) 戦いの鉄則

ヨシュアがカナンの地に入るときにどのような苦労があったのだろうかと思像します。例えば、山に登るときのことを考えるとわかりやすいでしょう。高い山に行くともなれば、事前の計画が欠かせません。その中で最も重要なのは、万が一のときの備えであると言われています。例えば体調を悪くした場合とか、天候が悪化したときにどうするか。そんな事態に備えて必ず途中で下りられるような逃げ道を確保しておきます。

戦いにおいてもこの原則は変わりません。カナンの地に入ろうというときに、ヨシュアが常に考えていたのは万が一のときの逃げ道です。彼はまだ若かったときにカナンの地を偵察したことがあるので、カナンの地理には詳しい。たとえ安全にヨルダン川を越えたとしても、周りは敵だらけですから右にも左にも逃げ道がないことを知っていました。後ろは川ですから逃げ道は閉ざされています。そんなところへ足を踏み入れて大丈夫なのか、悩みました。ヨルダン川を渡り、エリコを攻め落とし、とんとん拍子で進んできたかに見えたのですが、実は危険と隣り合わせの綱渡りの状態でした。

### 2) 後がない

ここまで何とか進んで来られたのは、常に勝ち続けていたからです。勝ち続けている間は、敵はイスラエルに手を出すことができま

せん。でももしこの勝ちパターンが崩れたらどうなるか。一気にイスラエルの弱点があらわになります。逃げ道をふさがれているイスラエルに、いま敵が攻めてきたらひとたまりもありません。

その心配した事態が起きてしまいます。アカンが聖絶のものを盗み罪を犯したことが原因で、イスラエルは戦いに敗れ、犠牲者が出てしまいます。ヨシュアは真っ青になりながら、頭からちりをかぶり主に助けを求めました。

そんななかで主は言われました。「あなたがたのうちから聖絶のものを一掃してしまわないなら、わたしはもはやあなたがたともにはいない。」イスラエルは、主のみことばに従い、罪を犯したアカンを石で打ち殺し、彼の財産すべてを火で焼いていきます。そうやって、イスラエルは罪の汚れからきよさを回復していきます。

## 2 民とともに過ごすヨシュア

### 1) 二つの陣営に分ける

とは言え、依然としてイスラエルは危機的な状況に置かれていることには変わりはありません。そこでまず主は、次のように語ります。1節。「恐れてはならない。おののいてはならない。戦う民全部を連れてアイに攻め上れ。見よ。わたしはアイの王と、その民、その町、その地を、あなたの手へと与えた。」そう語ってから、具体的な指示を与えます。兵力を二手に分けて、アイの町の北と西に配

置します。西に向かう陣営は、アイの住民に気がつかれないよう夜こっそりと移動させ、これを伏兵として置きます。一方、北に向かった陣営はわざと敵が気づくように移動し、注意を引かせ、おとりとなります。そのように配置して、あとでアイの町を挟み撃ちにする計画でした。その戦いの様子については、次回触れることとなります。

## 2) いつもともにいなさい

さて、ここで一つ注意していただきたいことがあります。9節。「ヨシュアはその夜、民の中で夜を過ごした。」13節にも出て来ます。「ヨシュアは、その夜、谷の中で夜を過ごした。」それほど離れていないところに二度も同じフレーズが出て来ます。大切なことを伝えようとしているというしるしです。なにか大切なのでしょう。

ヨシュアがこうするのには一つの理由があります。1節で主はこう語っていたからです。「戦う民を全部連れて。」この部分はこう言い直したほうがわかりやすいでしょう。「あなたは、あなたといつしよに、戦う民を全部連れていきなさい。」あなたは戦う民から離れてはいけません。いつもいつしよにそばにいていつしよに戦いなさい。そう言っています。

軍の最高司令官が最前線に赴いて一般の兵士といつしよに戦うことは、映画ではよくある話かもしれませんが、実際にはあり得ません。万が一、リーダーが戦場で死んでしまえば、軍全体の統率が取れなくなり、そこで敗北となってしまうからです。ですから、主がヨシュアに語った命令は常識を覆す内容です。

安全な任務を負った部隊に向かえという

のではありません。アイの住民に自分たちの姿をさらし、おびき寄せ、おとりとなる役目です。非常に危険な任務です。その中にヨシュアが入るように言われました。ここにもどのような主の御心があるのでしょうか。そこに目を留めていきます。

## 3 主がしてくださったこと

### 1) ともにおられる

旧約聖書では、神のひとり子であるイエス・キリストが具体的に登場することはほとんどありません。その代わりに、いろいろな方法をとおして救い主のお姿が示されます。ここでは、主はヨシュアを通してご自身の御心を示そうとしていると見る事ができます。三つあります。

まず一つ目。9節の「民の中で夜を過ごした。」に主の御心が示されています。

あしたはアイとの戦いであるというその晩、人々はどんな思いを抱えていたのでしょうか。この戦いに負けたならどうなるか。そう考えたでしょう。逃げ道はふさがれています。イスラエルは全滅です。ですから絶対に勝たなければなりません。でも、一度負けている相手です。もしかしてまた負けるかもしれない。負けながら逃げるということは、正面から戦うよりも非常に難しい任務です。いろいろな思いが襲って来てきます。東の空が明るくなる時、もしかして自分は二度と朝日を見る事ができず、きょう死ぬかもしれない。そんな思いで夜を過ごします。ヨシュアはそんな不安を抱えた兵士たちとともに夜を過ごします。遠く離れた安全な場所に身を置くのではありません。戦いの最前線で、もっとも不安な夜をともに過ごします。

主もおなじようにされました。ピリピ 2

章 6、7 節にこうあります。「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える姿をとり、人間と同じようになられました。」

この方は、罪の暗闇の世界に降りて来てくださり、私たちと同じように試練に遭われました。主が私たちとともにいてくださるとき、決して安全なところに身を置いていたわけではありません。ともに苦しみを味わいます。ともに悩んでくださいます。もしかして、この日が自分の死ぬ日になる。そんな私たちが抱える不安をともにされながら夜を過ごしてください。

## 2) 戦いに負ける

主の御心の二つ目。ヨシュアは軍隊を二つの陣営に分けました。西に置かれた陣営は、身を隠して後でアイの町に攻め込みアイの町を勝ち取る任務が与えられています。北に置かれた陣営は、敵の前から逃げ出し、負ける任務が与えられています。もし自分が軍隊の指揮官なら、どちらの陣営に身を置きますか。普通は、勝つことが約束されている西の陣営に赴くはずでしょう。ところがヨシュアが向かったのは、戦いに負ける任務を負った陣営です。軍隊の指揮官が行くところとしてはふさわしいとは思えません。しかしヨシュアはそこに向かいます。

これも主のお姿を現しています。さきほどのピリピ 2 章 7、8 節にあるとおりです。「人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。」

主は、戦いに勝つのではなく、負けるために私たちの所に来てくださったことをもう

一度覚えたいと思います。十字架とは何でしょう。罪のない方が、罪から来る報酬である死に従い、敗北していく姿が示されているところです。

## 3) 伏兵を置く

でももし、ヨシュアがアイの住民の前から逃げ、敗北したところでこの話が終わるのであれば、私たちには何の励ましにもなりません。もし、主が十字架で死なれ、墓に葬られたというところ終わるのであれば、やはり私たちにとって十字架は何の励ましにもなりません。あるのは絶望だけです。

今日の箇所です。私たちのもっとも励ましとなることは、主はアイの町に伏兵を置いてくださったというところにあります。ヨシュアは、アイの住民の前から逃げ出します。負けた姿をとります。でも、次の瞬間、それまで身を潜めていた伏兵が姿を現し、アイの町をたちまちにして占領していくのです。主は墓に葬られましたが、三日目に死からよみがえられました。ここに、私たちの真の希望があります。

2 週間前、私の叔父が亡くなりました。私の父親代わりとなり、私が悩んでいたときに親身になって相談に乗ってくれた人でした。通夜に出たとき、棺に納められている叔父の顔を見ました。翌日、火葬場に行き、骨となった叔父の姿を見てきました。ついこの間まで、岩手と札幌と住むところは違いますが、同じ空を見上げ、同じ朝を迎え、同じ一日を過ごしてきたのに、もういっしょに次の日を迎えることはできません。そんな叔父にもう一度会いたいと私は願っております。

無理な願いでしょうか。そうは思いません。ラハブはこう祈っていました。「私の父、母、

兄弟、また、すべて彼らに属する者を生かし、私たちのいのちを死から救いだしてください。」主はこの祈りに応えてくださったのです。ならば、私たちもまだ救われていない家族の救いのために、祈ることができるのではないですか。そう信じています。

もう死んでしまった。棺に納められた。焼かれて骨になってしまった。もう遅い、もう負けだと人々は絶望します。しかし、主の救いに遅すぎるといことはありません。主はアイの町に伏兵を置いてくださいました。主の救いは思いがけないところから差しのべられていきます。

私たちの苦しみをともにされた主がどのように救いを与えてくださるのか、ヨシュアのことをとおして、豊かに知らされていきます。